



令和5年度 校長室だより 第1号

他者(ひと)のために 一歩先の自分へ



令和5年度を迎えて

校長 富川 麗子

東京都立東村山高等学校に校長として着任して2年目を迎えました。今年2月にグラウンドも完成し、教育施設が一新しました。進学応援型エンカレッジスクールとして14年目を迎える本校ですが、更に学校を成長させていこうと、教職員一同力を合わせて取り組んでまいります。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、4月7日(金)、晴れやかに、入学式を挙行いたしました。御多用の中御臨席くださいました御来賓の皆様をはじめ、本校を支え、応援して下さる皆様に心より感謝申し上げ、入学式式辞の一部を紹介し、年度当初の学校長挨拶とします。

(前略) さて、例年以上に高い倍率となった入学試験を見事に突破し、本校に入学した皆さんを私は、誇りに思っています。これまで歩んできた道はそれぞれですが、本校は、「学び直し」の機会を設けながら、一人ひとりの目標を実現することを目指している高校です

その中で、皆さんには将来、社会で自立して生きていける力を身に付けてほしいと思います。そのために今日から、ゆっくりとした歩みでいいので、少しずつ努力を続けていってください。努力することは格好悪いなどという、誤った風潮が一部にあります。努力は恥ずかしいものではなく、大切なことです。無駄な努力などありません。小さな努力の積み重ねが、きっと将来、綺麗な花を咲かせるのです。

作家の村上春樹さんが、『走ることに語るときに僕の語ること』の中で、「小説家にとって必要な資質について、才能、集中力、持続力をあげています。しかも、集中力と持続力は才能とは違ってトレーニングによって獲得することができ、その質を向上させることができると。刺激し、持続する。刺激し、持続する。この作業にはもちろん我慢が必要である。しかし、それだけの見返りはある。」と述べています。

村上春樹さんのプロとしての強さを感じずにはられません。村上春樹さんの創作を支える基盤は、地道でたゆまない積み上げによって成立しているのです。

つまり、努力は、自分の夢や目標に近づくために絶対に必要なことであり、どんなに才能があっても、努力しなければ、その才能は発揮できず、逆に、どんなに才能がなくても、努力すれば、その分だけ自分を成長させることができるということなのではないでしょうか。新入生の皆さん、これから本校での学校生活に懸命に取り組んで楽しむと同時に、沢山努力をして、皆さん自身を成長させてください。私は、皆さんの成長を心から応援していきます。

次に、「人との関りを大切に」してください。

高等学校は、人と人との絆をつくる大切な場所でもあり、皆さんには学習や学校行事、部活動等をとおして、人の痛みが分かり、常に相手の立場に立って物事を考え、感謝の気持ちをもって行動できる人になってもらいたいと思います。

人は自分一人で生きているのではなく、家族、友人、学校の先生、地域の方など周囲の人からの思いやりや励まし、応援や支えがあってよりよく生きることができるのです。自分を他者に置き換えて考えるという想像力を働かせることはとても大切で、コミュニケーションの基本となります。新しい仲間に関心をもち、認めるべきことは謙虚に認め、良い点を吸収しようとする姿勢をもってほしいと思います。

そして、「人との関りを大切に」一つの方法として、相手に自分のことや考えを丁寧に伝えていくという、「伝える力」を普段から意識して、お互いに高め合って、ほしいと思います。普段からこの「伝える力」を意識して、楽しい学校生活、思い出深い学校生活、努力する学校生活を築いてください。(後略)



←写真2
新入生宣誓

←写真1
198名の新入生

→写真3 副校長・
室長・担任紹介



☆HPでは学校の様子を紹介しています。併せて御覧ください。